

私の留学体験記

広島県立西条農業学校 2年 高橋 凜花 (たかはし りんか)

留学期間 令和5年10月6日 ~ 令和5年10月17日 (12日間)

留学先 ラザロ・スパランツァーニ高校 (モデナ、イタリア)

私は10月6日から10月17日の間、イタリア共和国のラザロ・スパランツァーニ高校とボローニャ大学で研修を行いました。海外に行くのも初めてで緊張していましたが、イタリアについては、ホストファミリーがとてもやさしく接してくれて不安はありませんでした。いろいろな経験ができ、研修を受けることができ本当に良かったと感じています。

イタリアでは、大学の教授の講義を受けたり、高校や企業の施設の見学をしたりしました。教授の講義では、農業4.0のことについて学びました。これからの農業に大切なテクノロジーの重要性を感じ、日本でも広めていかなければならないものだと感じました。農場の見学では日本とイタリアの農業の違いを学ぶことができました。日本ではよりきれいなもの、よりおいしいものを求めて品種改良を行います、イタリアでは自然主義の考えを大切にして品種改良を行うことは少ないそうです。その場所の気候風土に合った野菜を自然に栽培することが多いと伺いました。私はそのことを知り、日本の更においしい作物を求める栽培方法も良いものだと感じていましたが、これから持続可能な社会を目指していくためにもイタリアの自然な栽培方法はとても大切な考え方だと感じました。施設の見学で特に印象的だったものは、ラザロ・スパランツァーニ高校のイタリアで有名なチーズであるパルミジャーノ・レッジャーノを作る施設です。パルミジャーノ・レッジャーノは作り方が難しく、パルミジャーノ・レッジャーノと認められるのにもいろいろな基準があるそうです。そのような価値のあるものを高校で作っているということにとっても驚きました。また、ラザロ・スパランツァーニ高校の生徒が熱意を持って、丁寧に説明していて、パルミジャーノ・レッジャーノへの愛が伝わってきました。

ホストファミリーだけでなく、いろいろな人と交流することができました。イタリアは日本とは景色も習慣も違い、別の世界に来たようでした。しかし、交流した方々は私のことや日本のことに興味を持って質問をしてくれたり、会話をしてくれたりして受け入れてもらえて本当にうれしかったです。ホストファミリーのサラはとても優しくしてくれて、私は安心してイタリアで過ごすことができました。サラのやさしさを見習っていきたいです。私がこの研修を受けるにあたり、様々な方が協力してくださいました。その方々への感謝を忘れず、イタリアで学んだことを今後の語学学習や課題研究に活かし、これからも勉学に励んでいきたいと思えます。

